

## ◇ディレクト・フォース ～ 「笹川平和財団」を訪ねて ～

私は初日、赤坂に社屋を構える「笹川平和財団」「日本財団」を訪ねた。東京の一等地に自社社屋を置き、まさに一流中の一流という雰囲気であった。笹川平和財団と日本財団は同系列の公益財団で、出資や構成員が異なるものの、海洋事業や国際支援等の事業をグローバルな視点から行っている財団である。笹川財団というと、たぶん誰もが頭に浮かぶのがボートレースである。ボートや船舶に関する会社の経営をしているイメージだったが、財団を訪問すると、いかに自分が勉強不足で認識が甘かったかに気づかされた。「笹川平和財団」「日本財団」はボートレースの収益金等で国内外における様々な研究や支援活動を行っている。21世紀の人間社会の複層的・複雑化した課題に取り組んでいる財団であり、地球の自然的・社会的危機に対応すべく、必要な事業を展開し、支援しているのである。その財団の会議室で貴重なお話を伺った。

### 「学生のころから社会に触れることが大事」

まず、笹川平和財団の田中伸男理事長から基調講演をいただいた。お話の中で心に残っているのは、企業は「自分から動く人」を人材として求めているという言葉であった。私たちに向けて、学生のころから社会に触れることが大事だと話してくださった。

次に、ブリヂストン欧州本社CEOである藤村峯一氏からお話を伺った。藤村氏は慶応大学工学部卒業の後、ブリヂストンに入社。ブリヂストンの元常務であり、「スタッドレスタイヤ」の名付け親ということであった。現代社会は世界中どこへ行っても移動手段に車を使用するが、冬道で必須となる冬タイヤの代名詞「スタッドレスタイヤ」を研究考案し世界に広めた方で、その功績は絶大である。藤村氏のお話の中には、心に残る言葉が多数あった。

### 「自分の人生を設計する」

まず、「自分の人生を設計する」ことが大事だということ。藤村氏は世界のトップ経営者500に選ばれている方で、常に海外を意識して仕事をされてきた方である。自分の人生を豊かにするためには、自己の持っている能力を磨き、自分の個性を発揮できる場を作ることだということであった。藤村氏の信条は、「競争の激しい海外をも含めて生き残るためには、最強ではなく環境に適用していくこと、グローバル化を意識すること」ということであった。そのためには、日本で通用する常識にとらわれない視点、むしろ日本の常識を疑うという視点で、ものごとを考えなくては世界に通用する仕事はできないのだという言葉に感銘を受けた。

### 「心の通信簿は金ではなく、社会貢献である」

「心の通信簿は金ではなく、社会貢献である」経済もちろん大切ではあるが、グローバルな社会、様々な文化が融合する世界で通用するには、自分たちの利益の追求だけではなく、全体を見据えた多角的な見方で仕事を進めることが大切なのだということであった。また、私の「個性が大事であると言われるが、学生時代に個性を育てるにはどのようにしたらよいのでしょうか。」という質問には、「毎日の生活の中で、常に意識して過ごすこと。」と答えてくださった。

その後も貴重なお話をたくさん聞くことができた。JLTホールディングスジャパン株式会社顧問である山田正実氏のお話では、世の中はすでにグローバル化となっていて、その中でどう生きていくかが若い世代が持つこれからの課題ということだった。

### 「言葉で伝える」

どのようにすればよいか、どのようなことが必要か、「若い世代」の一人として気になった。山田氏によると、他者に負けないように言葉で伝えることが大事だということだった。そのためには英語ともう一つ外国語を身につけることが必要ということである。私も英語を習得する必要性は感じてはいるものの、なかなか自分の意思を表現するのは難しいことも感じている。グローバル化はすでに始まっていることであり、私もその中で生きていかななくてはいけないのだと改めて意識する時間となった。

### ◇企業大学訪問 ～ 国立天文台を訪ねて ～

笹川平和財団訪問の後は、東京三鷹にある国立天文台に伺った。国立天文台はハワイ、チリなどに12の観測所を設けて、日々地球規模での天文観測を行っている。中でも驚いたのが、「アルマ」と呼ばれる世界最大の電波型望遠鏡である。この望遠鏡ではこれまでにわからなかった様々なことを知ることができたということであった。

次に、天文台の方に伺った質問について記載する。

Q 研究する上で大切なことは何ですか。

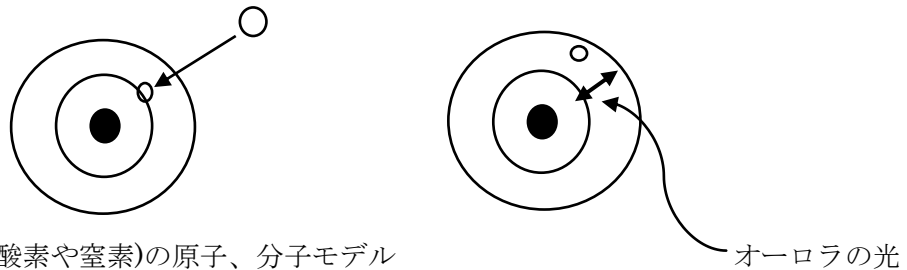
A 固定観念や偏見があることに気づき、疑問を持つこと。当たり前だと思っていることが、実はそうではなくて、真実を知るには思い込みを捨て、客観的にみることである。

Q 現在研究していることは何ですか。

A アルマが3つ置けるような、日本で難易度の高い受信機の開発担当として、研究をしている。

Q オーロラの色はどのような色ですか。

A 色は高度と大気成分で変化する。メカニズムは次の図のようになる。



※真ん中の●は、原子核

※○は、宇宙から飛んできた電子

真ん中の黒丸は空気(酸素や窒素)の原子核で、そのまわりに空気の電子の軌道がある。そこに宇宙空間から飛んできた電子が衝突する。すると衝突された空気電子は外側の軌道にずれてしまうが、これは不安定な為、徐々にもとの軌道に戻ろうとする。このとき発生するのが、オーロラの光である。発生するエネルギー量が大きければ青色、中くらいなら緑、小さいと赤色のようになるらしい。

Q 最遠方のO<sub>2</sub>を調べることで何がわかりますか。

A 電離状態がわかり、物理環境もわかり、銀河の若さがわかるようになった。

Q 宇宙の広がる速さは。

A これについては物理法則が使えず、未だにわからない。

Q ガンマ線について勉強するにはどうしたらよいですか。

A 高エネルギー分野。本格的には大学で勉強する。今から量子力学の入門書などを読むとよい。

### ～重力波検出器について～

2015年アメリカの重力波検出器LIGOによってブラックホールの衝突による重力波が検出された。重力波とは、100年前にアインシュタインの一般相対性理論によって予言されたもので、その実態はとらえられていなかったのだそうだ。重力波は時空のゆがみが波動となって伝わるもので、重力波で星の合体を検知することができ、その大きさも知ることができる。国立天文台の構内には「TAMA300」というレーザー干渉計があり、これで観測したデータをもとに岐阜県神岡の地下に、重力波観測のための大型レーザー干渉計「KAGRA」を建設している。今後、さらに天文学、物理学の情報を得るには、継続して重力波検出器が必要となるということで、国立天文台ではプロジェクトを組んで研究を進めているということであった。重力波や中性子量の測定などの考え方は、初めてお聞きする言葉も多く難解ではあったが、今まで知らなかった知の世界が広がったようで、とても楽

しく拝見することができた。



国立天文台三鷹キャンパス



“タマちゃん” こと 「TAMA 300」

◇ 東京大学オープンキャンパス



これが、憧れの東大!!

まず、東大の学生による科学ツアーに参加した。ツアーでは、エタノールによって磁力が変化する磁石についての研究の説明を受けたり、原子を包み込む箱のようなものを作製する研究について説明を受けたりした。また、有機化学の実験をしている様子を見学したりした。どれもとても興味深く、科学についてもっと深く知りたいと思えるような内容の研究が多くあった。

私が是非参加したいと申し込んだ工学部の説明会では、工学部の教授が自ら説明をしてくださり、先端医療で活躍しているロボットの構造についてのお話や世界の名だたる大学とも協力して研究開発を進めているということを知った。世界をリードする研究開発を見せていただき、大変感激し、いつか自分も開発に携わってみたいと強く思った。日本を代表する大学で、トップレベルの研究に触れることができ、私の人生の中でとても貴重な、大変充実した2日間であった。